

大学生のアルバイトは就職活動に役立つか？

Are Part-time Jobs for College Students Useful for Job Hunting?

須藤祐子

Yuko SUTO

宮城大学食産業学群

School of Food Industrial Sciences, Miyagi University

【キーワード】

アルバイト, 就職活動, 社会環境理解,
履歴書, アンケート
Part-time Job, Job Hunting,
Understanding Social Environment,
Resume, Questionnaire

【Correspondence】

須藤祐子
食産業学群
sutouy@myu.ac.jp

【Support】

【COI】

本論文に関して、開示すべき利益相反関
連事項はない。

Received 2023.06.01

Accepted 2023.07.20

Abstract

For university students, job hunting is an opportunity to experience "self-selection and self-determination", which are important for career development, and requires self-awareness and understanding of the social environment. Through part-time jobs, university students are expected to broaden their perspectives and promote their understanding of the social environment by exposing them to the real world.

We investigated that university students gain through part-time jobs experience, and which processes and aspects are useful in their job hunting activities, based on university-style resumes and a graduate questionnaire.

From specific examples of "self-promotion" and "things I worked hard on as a student" in the university-style resumes, it turned out that college students often learned through part-time jobs. And it can also be inferred that they deepened interpersonal and job skills.

From the graduate questionnaire, it was clear that part-time jobs were useful for job hunting. In particular, it is used as a concrete example of entry sheet creation and interviews. It can also be inferred that part-time jobs helped them acquire interpersonal skills through more frequent contact with members of society, which was useful in their job hunting activities.

In order to confirm that part-time jobs are useful for job hunting, it is necessary to also interview companies, and we would like to undertake a survey.

In addition, according to previous research, the sense of purpose of part-time jobs has an impact on the setting of job-hunting goals. In the future, I would like to verify whether there is a change in the purpose and willingness to work by communicating the positive aspects of part-time jobs clarified in this paper to students in advance.

はじめに

大学生にとって就職活動は、キャリア形成で大切な“自己選択・自己決定”を経験する場となり、自己理解や社会環境理解が必要である。大学生のアルバイトは、実社会に触れることで視野が広がり、職業や労働環境などの社会環境理解が進むと期待される。マイナビ（2023）によると、アルバイト経験がある大学生の割合は84.3%で、大半の大学生がアルバイトを経験している。

大学生のアルバイトについて、木戸口（2013）、渡辺（2015）は、深夜や早朝そして長時間就労が授業の履修や出席の阻害要因となり、健康への影響も大きいと否定的である。近年、バイトテロ、ブラックバイト、闇バイトなどネガティブなニュースもあり、社会問題にもなっている。一方、西・柳澤（2010）、石山（2017）、三保（2018）、山本ほか（2018）は、基本的職務遂行能力を築ききっかけとなり、社会性に関連する意識変容を促す効果は高く、職業選択に関わる心理的状况に肯定的な影響を及ぼすとしている。

これらの先行研究より大学生のアルバイトは、仕事内容や労働環境により否定的にも肯定的になる活動である。

また、高橋（2021）は、就職活動時の効果的な自己分析の方法として、学生時代に力を入れたものについての分析が有効で、特に職業体験ができるアルバイトの経験分析が重要としている。つまり、アルバイトの経験を掘り下げることが、自己理解につながると言える。

大学生の多くが経験するアルバイトで、どのような側面で社会環境理解が進み、就職活動に役立つのかを事前に学生に伝える事で、アルバイトの目的や就労意義、そして、就職活動やその後のキャリア形成にもプラスの影響を与えるのではないかと考えた。本稿では、アルバイトで、どのような側面での社会環境理解が進み、実際にその経験が就職活動で役立ったのかを検証する。

就職活動時に、履歴書や面接の経験談としてアルバイトを表現している学生は多い。企業は、履歴書の質問項目「自己PR」や「学生時代頑張ったこと」から、入社後の行動・成果予測、潜在職務遂行能力を読み取る。キャリア科目の講義内で、「自己PR」には「自分の強み」、「学生時代頑張ったこと」にはその頑張った経験を通しての「学び」や「身に付けたこと」を、読み手がイメージしやすいように具体例を入れて表現するようにアドバイスをしている。講義内の課題として提出された履歴書の「自己PR」と「学生時代頑張ったこと」に記述された具体例とその内容より、学生自身がアルバイトで「何を学び」「何を身に付けた」と自覚・認識しているかを確認し、どのような側面での社会環境理解が進んだのかを検証する。

また、卒業生アンケートより、実際に、アルバイトがどのような側面やプロセスで就職活動に役立ったのかを検証する。

データと分析結果

1. 「2022年度 3年生必修キャリア教育科目 課題の大学様式履歴書」データ（以下、「大学様式履歴書」とする）

地方公立大学の農学系学群、3年生後期必修キャリア教育科目では、「履歴書・エントリーシート（以下、「ES」とする）の書き方」「面接練習」など就職活動のノウハウを伝えている。履修者は127名。同講義で大学様式履歴書を課題とした（2022年11月回収）。その質問項目の「自己PR」と「学生時代に力を注いだこと」の未記入者2名を除く、125名分のデータを使用する。なお、「学生時代に力を注いだこと」は、「学生時代頑張ったこと」と同意の質問内容として捉えた。

「自己PR」と「学生時代に力を注いだこと」に記述されている具体例を9分類した（図1参照）。「自己PR」と「学生時代に力を注いだこと」の質問の意図や表現の仕方は異なるが、経験の具体例を挙げ、そこからの「学び」や「身に付けたこと」を伝える事は同じと考え、「自己PR」と「学生時代に力を注いだこと」の合計数にて割合を出している（n=250）。なお、1つの質問項目に対して1つの具体例を示している学生が多いが、複数の具体例を示している場合は、「その

他」に分類している。また、記述された具体例の内容より「学び」「身に付けたこと」を表現している単語をグルーピングし 53 単語（以下、「表現項目」とする）を抽出した。

具体例として、図 1 で示しているように「アルバイト」が 35.2%と高く、「勉学・研究など」18.0%、「学内での委員会活動」8.8%、「大学でのサークル」8.4%などとなっている。この学年は、2020 年 4 月コロナ禍での入学者ということもあり大学生活での活動が制限されていた。その点で、「ボランティア」や「インターンシップ」など学外での活動の割合が低いかもしれない。

図 2 は、具体例を「アルバイト」にしている学生の表現項目毎の使用率である。アルバイトで「学び」「身に付けた」と自覚・認識している表現項目が 36 項目あり、その中でも「相手の立場になり考える」「課題解決」「人間関係構築」「効率性」は使用率が 10.0%以上と高い。なお、図 2 では、使用率が 4.5%（4 名）以上の表現項目を示している。

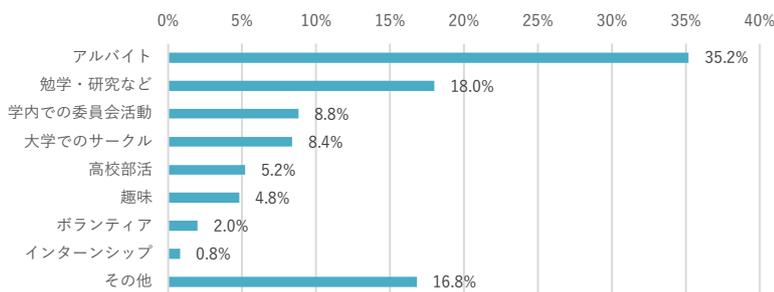


図 1 大学様式履歴書 具体例割合 (n=250)

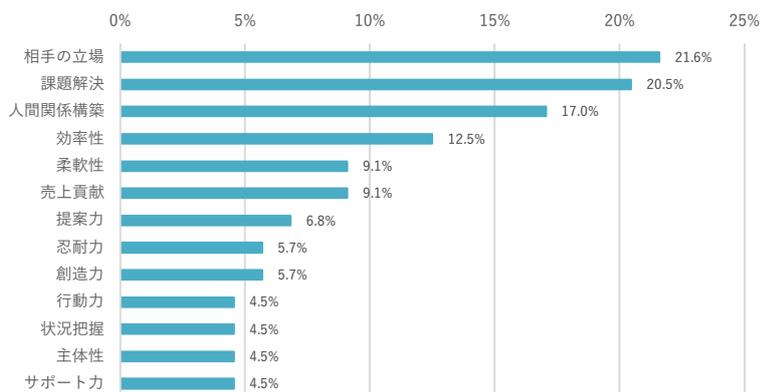


図 2 大学様式履歴書 アルバイト表現項目毎使用率(n=88)

2. 「2023 年 3 月卒 就職活動実態アンケート」データ（以下、「卒業生アンケート」とする）

地方公立大学の農学系学群では、卒業年度の 1 月～3 月にかけて、就職活動の実態について WEB 形式にてアンケートを実施している。就職活動についての質問項目の他に、在学中のアルバイトに関する質問項目を設けた。本稿では、「アルバイトと就職活動」をテーマとしているため、進学者等の回答は無効回答とした。また、就職者の内 97.0%がアルバイト経験者であり、アルバイト非経験者の回答も無効回答とした。

対象者：卒業生アンケート回答者 38 名（内、進学者等 5 名、アルバイト非経験者 1 名）
有効回答者 32 名

2-1 アルバイトの現状

「どのくらいのペースでアルバイトをしたのか」について、4 件法で尋ねた。「週に 1～2 日」31.3%、「週に 3 日以上」65.6%、「短期・単発」3.1%、「長期休み限定」0.0%となり、「週に 3 日

以上」が一番高い。

アルバイトの職種について、7件法の複数回答可として尋ねた。「家庭教師系」4.9%、「販売系」29.3%、「飲食系」56.1%、「販売・飲食を除く軽労働」4.9%、「事務系」と「その他」が2.4%、「重労働・危険作業」0.0%となり、「飲食系」が一番高い。

これらの就労状況からも、全国大学生生活協同組合連合会（2023）が示唆しているように、コロナ禍で悪化した大学生のアルバイト就労状況はコロナ禍前までに回復しつつあると考える。

2-2 アルバイトの目的

アルバイトの目的について、13件法の複数回答可として尋ねた。図3で示しているように、「貯金をするため」と「社会経験を積むため」が18.8%と高く、次いで「自分の生活費のため」が13.4%などとなっている。

また、「社会経験を積むため」以外のキャリア意識や形成に関する項目は、「スキルを身に付けるため」7.1%、「充実感ややりがいを得るため」4.5%、「将来のキャリアのため」2.7%、そして「就職活動に活かすため」が5.4%とどれも低い。アルバイトの目的として、「社会経験」に留まり、「具体的にアルバイトの経験から何をgetしたいのか」、「将来どのように活かしたいか」までの目的意識は薄いようである。

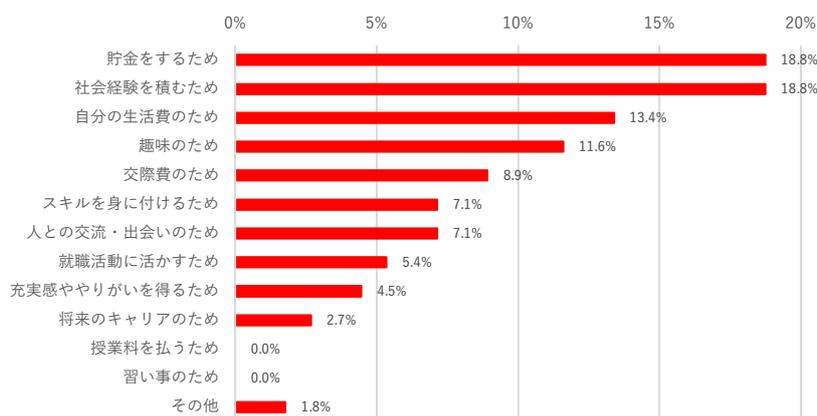


図3 卒業生アンケート アルバイトの目的 (n=32)

2-3 アルバイトは就職活動に役立ったか

「アルバイトは就職活動に役立ったか」について、2件法で尋ねた。「役立った」が93.8%（30名）、「特に役立たなかった」6.3%（2名）となり、ほとんどの学生が就職活動に役立ったと回答をしている。

また、「役立った」との回答者に、「アルバイト経験が具体的にどのような側面で役立ったか」について自由記述式で尋ねた。23名より回答があり、そこに記述されている役立った内容より40単語を抽出、更にグルーピングし13単語にまとめた。図4で示しているように、「コミュニケーション」が30.0%と高く、次いで「履歴書・ES作成の内容に活用（以下、「履歴書・ES作成ネタ」とする）」25.0%、「面接での経験の具体例（以下、「面接ネタ」とする）」と「言葉遣い」が10.0%、「礼儀やマナー」5.0%となっている。なお、「積極性」「大学での学び」など回答者1名の8つの単語は「その他」としてまとめている。

なお、「履歴書やESの「自己PR」「学生時代頑張ったこと」でどのような具体例を記述したか」について、8件法の複数回答可として尋ねた。回答数が63あり、その中で「アルバイト」が42.9%と高く、「サークル活動」22.2%、「ボランティア活動」「インターンシップ」「資格取得」が6.3%、「趣味など自分が興味ある分野の活動」4.8%、「外国語学習」0.0%、「その他」11.1%となった。このように、大学様式履歴書と同様に、アルバイトは、履歴書・ES作成ネタとして多

く使用されていることが示された。

これらの結果より、アルバイトは就職活動に役立ち、「履歴書・ES 作成ネタ」や「面接ネタ」として活用していることが明らかになった。

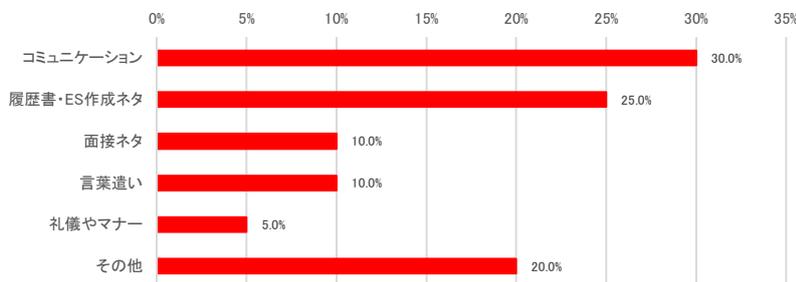


図4 卒業生アンケート アルバイトが役立った側面 (n=40)

2-4 就職活動の主なプロセスにおける自己評価

多くの学生にとって就職活動は、初めての職業選択であり、「自己選択・自己決定」するためにも、「世の中にどのような仕事や企業があるのか」、そして、「将来、どのような自分でありたいのか」などの価値観を探る必要がある。その後、就職試験を受ける企業を選択し、企業に向け自身をアピールする。「就職活動」には、多くのプロセスがある。主な6つのプロセスである「自己分析」「業界研究」「企業研究」「仕事・職種研究」「履歴書・ES作成」「面接対策」と「社会人との接点」について、自己評価を5件法（5が最大の肯定値：十分やった，4：どちらかというと十分やった，3：どちらかというと不十分，2：不十分，1：やっていない）で尋ねた。アルバイト経験がある学生は、社会経験を通し視野が広がり就職活動に対しても前向きに取り組み、就職活動での各プロセスにおいて自己評価が高いと考えた。表1は、アルバイトを具体例にしている学生27名（複数回答している場合は、1つでもアルバイトが含まれていればこの項目とした）とそれ以外を具体例としている5名の自己評価に差があるか平均値を求め、t検定を行った。しかし、6つのプロセスと「社会人との接点」ではそれぞれ平均値の差が確認されなかった。アルバイトが、就職活動の各プロセスでの自己評価を上げるまでの活動ではない事が示唆される。

表1 卒業生アンケート 就職活動の主なプロセスにおける自己評価

就職活動の主なプロセス	アルバイト (n=27)		アルバイト以外 (n=5)		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自己分析	4.04	0.64	3.60	1.36	1.09
業界研究	3.81	0.61	4.00	0.89	-0.56
企業研究	3.93	0.72	3.80	1.17	0.31
仕事・職種研究	3.81	0.61	4.00	0.89	-0.56
履歴書・ES作成	4.11	0.68	4.00	1.10	0.29
面接対策	4.07	0.86	4.00	1.10	0.16
社会人との接点	3.30	0.97	2.80	0.75	1.05

考察と今後の課題

大学生のアルバイト経験で、具体的にどのような側面での社会環境理解が進むのか、そして就職活動のどのプロセスで役立っているのかを検証した。

大学様式履歴書の「自己PR」「学生時代力を注いだこと」に記述された内容には、学生がその経験を通して実際に「学び」あるいは「身に付けた」と自覚・認識し表現していることから、社会環境理解が進んだと解釈できる。表現項目数について、「アルバイト」が36項目、「勉学・研究など」27項目、「学内での委員会活動」18項目、「大学でのサークル」21項目、「高校時代の部

活」と「趣味」は13項目、「ボランティア」5項目、「インターンシップ」3項目となっており、アルバイトでは業界や職種によって異なるが、「学び」や「身に付くこと」の幅が広いと言える。

そして、図2のアルバイトの表現項目毎の使用率より、アルバイトでは「相手の立場になり考える」「人間関係構築」といった対人関係スキルや、「課題解決」「効率性」「売上貢献」といった職務能力スキルの側面で社会環境理解が進んだと示唆できる。なお、図4の卒業生アンケートからも「コミュニケーション」、「言葉遣い」、「礼儀やマナー」といった対人関係スキルが就職活動に役立ったと示された。大学内だけでの対人交流は、同世代の横の繋がりが主である。アルバイトでは客や従業員間など異なる世代との縦の繋がりも必要とされる。飲食系や販売系でアルバイトをしている学生が多く、幅広い年齢層への接客をしていると思われる。就職活動において、社会人と関わるという点で、アルバイトで習得したであろう対人関係スキルが役立ったと考える。

また、卒業生アンケートより、就職活動にアルバイトは役立ち、その経験が「履歴書・ES作成ネタ」や「面接ネタ」として活用していることが明らかになった。「履歴書・ES作成ネタ」に関しては、図1で示されたように大学様式履歴書でもアルバイトを具体例としている学生が多く、実際にその点で、就職活動で役立っていると言えよう。

しかし、「アルバイトが就職活動に役立つのか」を確認するためには、企業側が、どのようにアルバイト経験を捉えているのか、“企業側の視点”も必要である。

実際に、大学生のアルバイト経験について人事担当者、2社4名（食品製造業2名、食品卸売業2名）に対し、「ESにアルバイト項目を単独で設けているか」「大学生のアルバイトについてどのように捉えているのか」をインタビューした。

2社ともESにアルバイト項目を単独では設けておらず、「履歴書やESにアルバイトについての内容が記載されていれば面接で掘り下げて質問する」との回答だった。

なお、大学生のアルバイトに関しては、下記のような捉え方である。

- ・アルバイトでは、“働く”事への理解力を養うことができる
- ・同世代以外との関わりがあり、コミュニケーション能力が向上する
- ・人間関係、特に上司への対応ができ、対話ができる印象を受ける
- ・挫折を経験し、成長できる機会

このように、人事担当者毎に捉え方が異なる。また、面接時にアルバイト経験の質問をするにしても、受験企業の業界や職種、あるいは、学生のアルバイト先での仕事内容などで面接官の質問の意図が異なると考える。

今後の課題の1つとして、アルバイトの捉え方について企業側へのインタビューを重ね、どのような側面を表現すれば、就職活動に効果的なのかを探る必要がある。なお、「アルバイト」に限らず、この“企業側の視点”は、「企業がどのような人材を求めているのか」「学生に何を期待しているのか」を知る材料にもなり得る。

また、表1より、アルバイトが就職活動の各プロセスでの自己評価を上げるまでの活動ではない事が示唆される。大学様式履歴書と卒業生アンケートからは、アルバイトが「履歴書・ES作成ネタ」「面接ネタ」として就職活動に役立つことが分かったが、この結果と矛盾を感じる。また、「社会人との接点」は、就職活動の主な6つのプロセスより自己評価の平均値が低い。前述した「対人関係スキル面で社会環境理解が進んだ」という結果とも矛盾が出てくる。そもそも、“就職活動の自己評価”に関して、学生が何を基準に自己評価をしているのかを検証する必要もある。

そして、アルバイトの目的について、杉山（2007, 2009）、関口（2010, 2012）は、キャリア意識や就職活動の目標設定への影響があるとし、西・柳澤（2010）は、目標設定や活動の意識化が大切としている。図3のアルバイトの目的では、「社会経験を積む」ということは考えても、「その経験から具体的に何をしたいのか」「将来その経験をどのように活かしたいのか」までは意識していない事が分かった。

本稿で明らかになったアルバイト経験で、特に対人関係スキルの習得が期待でき、そして、就職活動ではその対人関係スキル面と「履歴書・ES作成ネタ」「面接ネタ」として役立つという事など具体例を学生に伝え、アルバイト経験を意識化させていきたい。そして、その結果として学

生のアルバイトに対する目的や就労意欲、行動に変化が表れるかについても今後の課題として検証していきたい。

謝辞

宮城大学食産業学群の先生方には、インターンシップを始めとするキャリア・インターンシップセンターの取り組みにご理解、ご協力を賜り感謝しております。また、キャリア開発室進路指導員、事務室の皆様との連携が取れ、学生への就職・進路支援やキャリア教育科目運営がスムーズに行われていることに感謝申し上げます。

文献

- 石山恒貴(2017)「大学生のアルバイト経験が職業能力とジェネリックスキルに与える影響」『人材育成研究』13 (1), 21-42.
- 木戸口正宏 (2013)「学生とともに「働くこと」を学ぶ(教養科目「現代社会と教育」における試み) その1—大学生のアルバイト経験に関する調査と大学教育・学生支援の課題—」『釧路論集：北海道教育大学釧路校研究紀要』, 45, 75-84.
- 杉山成(2007)「アルバイト経験はキャリア意識の形成にどのような影響を与えるのか」『小樽商科大学人文研究』113, 87-98.
- 杉山成(2009)「アルバイト経験はキャリア意識の形成にどのような影響を与えるのか (2)-アルバイトの位置づけに関する検討-」『小樽商科大学人文研究』117, 1-14.
- 関口倫紀(2010)「大学生のアルバイト経験とキャリア形成」『日本労働研究雑誌』52 (9), 67-85.
- 関口倫紀(2012)「大学生のアルバイト選択とコミットメントおよび就職活動目標-中核的自己評価と職務特性の役割を中心に-」『経営行動科学』25 (2), 129-140.
- 高橋 B.徹(2021)「就職活動時の効果的な自己分析の方法-大学生時代に取り組んだ出来事とキャリアセンターの利用に注目して-」『日本キャリア教育学会 第43回研究大会発表論文集』, 134-135.
- 西宏樹, 柳澤さおり(2010)「大学生のアルバイト活動を通じた学習-アルバイトの目標と活動の意識化の効果-」『中村学園大学・中村学園大学短期大学学部研究紀要』42, 285-292.
- 三保紀裕(2018)「大学生におけるアルバイト観とキャリア選択での自己効力感, キャリア意識の関連」『応用心理学研究』44 (1), 51-63.
- 山本幸子, 江口恵里, 楊玉華, 甲斐美智代, 佐藤正昭, 白蓋真弥, 山崎学, 吉村耕一, 増田公香, 人見英里 (2018)「大学生のアルバイトが健康, 学習, 意識変容に及ぼす影響」『山口県立大学学術情報』11, 127-134.
- 渡辺裕子(2015)「学生におけるアルバイトの実態と位置づけ-駿河台大学学生生活基本調査から-」『駿河台大学論叢』50, 169-187.
- 全国大学生生活協同組合連合会 (2023)『第58回学生生活実態調査概要報告』
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/pdf/pdf_report58.pdf>最終閲覧日 2023年5月23日
- 株式会社マイナビ (2022)『大学生のアルバイトに関するレポート (2022年)』
<https://career-research.mynavi.jp/wp-content/uploads/2022/07/2022_daigaku-baito-5.pdf>最終閲覧日 2023年5月20日